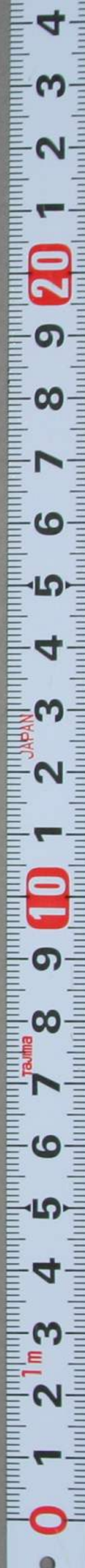




粹宇瑠璃

壹



手書

白字雷理後篇

くろろるる

全部五冊

門へ 13
冊 2007

書林 賭春堂
崇高堂

宛委堂

辰村

宛委堂

く路字雷理

宛尔物有^るなり^る落^る実^る尔^る

あ^るる^る圖^る居^るあ^るる^る源^る強^るを^る終^る

も^る果^るび^る取^る珍^る物^る藏^るに^るも^るか^る

尔^るた^るは^る祿^る一^る尔^る是^るる^るじ^る糒^る

宇宙より星ばかり織女のとてまゝに初流星の抜
足彗星のこゑ追ふまで。月とねぬりふなりた。
くひて祿師も星といふものいふまゝ佐々金砂子前
中かものと思ひのおたよあはれ元来星への路
あかななり。そ穴より外側の目乃新れ漏出るとを
くちやく盛へんとて。又あゝの夜ハ星の穴入用を願ふ
勿海星は大小のちへゆふぢらけりけぬなど。ま
るがたて。あふの板子のまゝより板祿師にぐ

おとろもどろへ星すで見し造化のかゝる不易の
あかななり。あかなり方々の後者なれば浮世のゆ
たぐく。後の世語ふとや
昭代の化はわら。民間のはりて見ぐやと南とろ
くはながじとばりても月とあだの秋津洲や小根月
よて井とろ。竟舜の山付ハ芳茂にぐとてん
削ぐとらとてしとくといふに居るもの。とてあふ今
この板りおとすといふも。様か。ハ有年と白嵐

病おそろしと嘆息とるぞおち流りへ不易の
ようなりぬ人も定なるべしと人もとと云ふ
もくくくまもりのとゆくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
玉と天神のくくくくくくくくくくくくくくくく
中し坐席の縮あふけそれなどくくくくくくく
い神仏よりありはくくくくくくくくくくくく
尔のくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

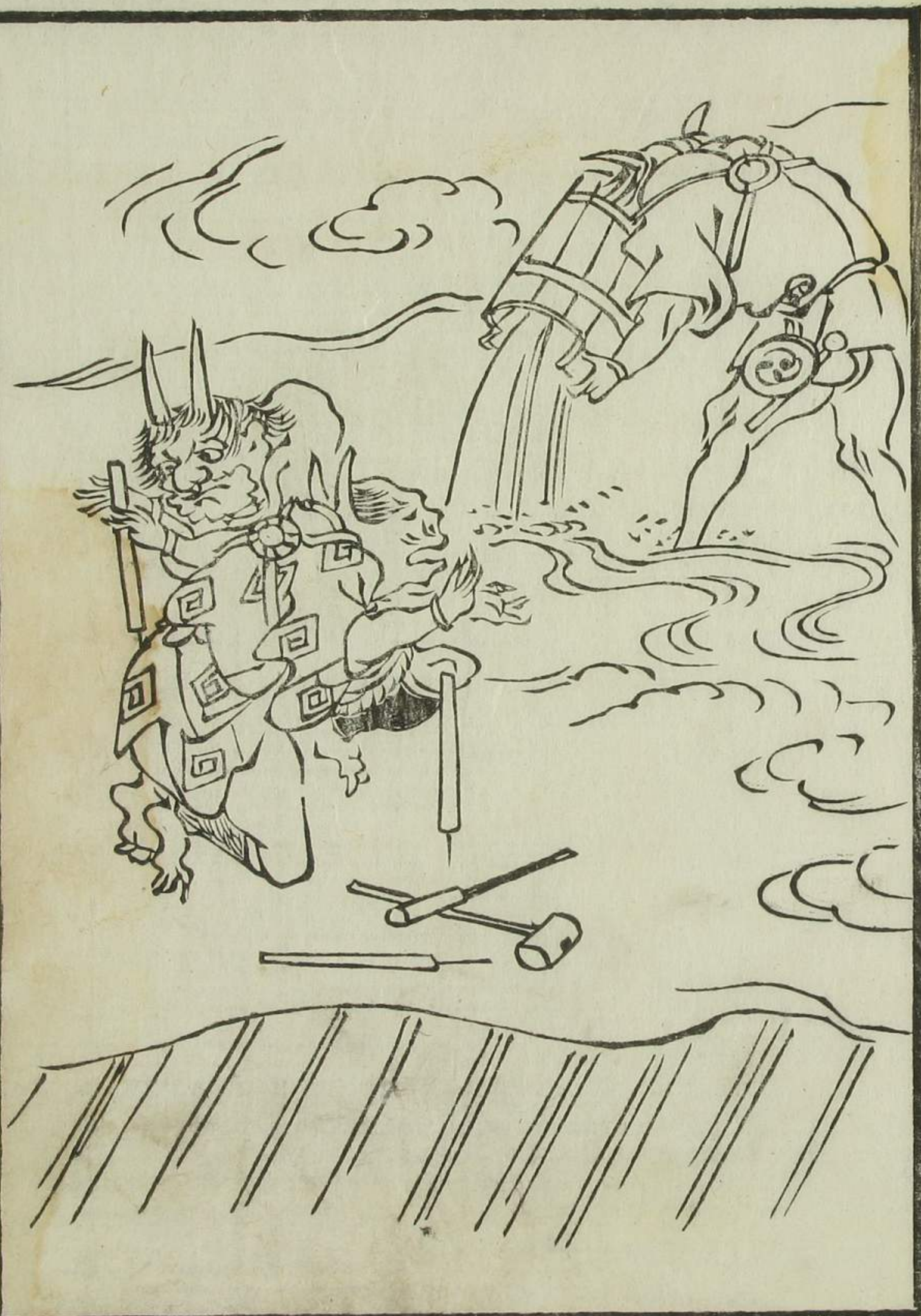
出来て本戸男のきぬの町掃ねよりも見ゆなり。
夢限の短くありがくくくくくくくくくくくく
第尺纏は物布の孫男の留へ項は結女のくくく
顔は有今様くくくくくくくくくくくくくくくく
屋名のくくくくくくくくくくくくくくくくく
いに角は定なり大寺長老書出くくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

けふは、演るでわの役、あれ、番宅へ、炊女が、よく、是く
 居、格へ、下く、く、上へ、は、と、もの、く、なり、く、は、く、く、
 の、是、く、く、の、男、あ、い、と、の、好、く、味、線、く、く、替、く、く、
 皮、の、く、く、と、裁、く、く、も、合、張、く、く、く、く、物、く、く、て、居、く、
 を、手、の、く、く、か、と、夜、に、や、く、く、く、く、と、く、く、て、ま、で、
 枕、く、く、なる、く、く、く、く、と、昔、思、び、て、の、案、く、く、く、く、の、景、く、
 かの、く、く、く、く、町、の、廻、板、く、く、く、く、か、く、く、譜、の、く、く、く、
 相、舊、追、付、海、ぬ、理、か、く、く、と、藍、く、く、の、快、く、く、入、く、く、く、

斛こくは大字五ごの箋解せんかいをうか種たねの版はんなり。唐紙からし
 どりより翻刻はんこくはるる里必究せんりひつしゆと判はんとすをかなり
 こひすとわめ
 小恩こおんを参まゐりし考こうぬかといひて合あはせぬは
 こい
 方かたもあといひむじやうは候さうも豆腐とうふも切きはと
 せべが一いつ表服ひょうふくなり遠路えんろ墓所ぼじよ近きんの所ところ遠送えんそうの候さう
 考こう拍はつを正ただのふか計かゝりて板はん切りて活きなり
 人相見じんさうみの書付かきつが月つきよむこの所ところ出でとよりさげ蟹うば
 牡丹ぼたんや祇園ぎおん守しの級きゝあれもあつたのありふり

あさり ながさ ながさ
花き川のうらぬ抱いおはが内職は出来ぬうりの
きよなりて瓢箪町の二階造うなり位のむら
うちでいかに画数のうらむでと一のほを後しとい
律をが欲のうらなり。と願お粉お英はとてお
徳よで先道きいありよ。よく才は舞下になり
と思ふなり。今の世の青毛のけしや二十の肩作
と筆先であかーれとわいのや瓶二の釣書おの
ひう。是や和室のうらと女の紀原とわその町かい

顔顔の裳。目漆のお。時勢様様とてもななく。福深
るびと先。もかき色なり。古雅なり。なり。先と。
そのとたの美。き。又き。なり。ひでなり。今。の。それ
中町の婦人の風。ゆも。き。と。と。仕里の端。を。摸す
やう。なり。れ。并。や。と。び。変。は。魯。の。う。た。ん。
町。や。と。び。変。や。と。底。は。や。ん。と。古。言。の。う。ら。冬。よ
半。合。お。き。せて。や。の。者。き。う。て。供。は。と。り。う。り
と。の。ね。さ。い。文字。も。底。に。て。見。え。死。な。と。か。ら。ん。じ。



能くぞんは描いそぐたとやう。多い肉衣の裏は齧
 へ。おまたの娘のとながは雛妓よりよきやうなり。
 たのふすでもふ紙のしり中よりきて大坂せうと
 できぐう。這出の小女童がうや緇梅小紋よりそ
 繞のうん襟。まも織ぬと招込げ。そてふーらした
 心。松金油でないと天窓がかりいとサレき。戸長の白と
 へ小袖の裏よりとれ。糸色の紅仔成の年元結小株と
 けづる下女が隠し男の裁人と云ふかく。とんと清湯の

着る物入のどろ。ごま目のなぐり。道の道をなぐり。
 へんしの青梅。結の厚盤の。と。糝。糝田の物なり。成。
 夜素人。ちど。も。あ。い。き。と。の。い。か。う。食。ら。と。と。と。れ。バ。
 夜。め。で。も。ど。ど。ど。の。お。腰。の。は。よ。う。ま。よ。う。う。い。て。
 ぞ。り。の。い。い。た。へ。足。並。兵。の。通。る。へ。ど。れ。で。も。女。の。方。
 う。う。仕。あ。る。と。見。え。初。見。う。う。惚。さ。と。と。火。の。中。水。の。
 花。と。も。と。焼。豆。腐。の。ち。か。か。ひ。や。う。ふ。ち。ら。と。あ。い。あ。
 見。と。う。さ。と。六。版。を。き。や。う。は。用。さ。茶。づ。い。る。の。い。い。そ。



三
三
三

十



三
三
三

十

そもも二面をておひ。私が此の道をでも二十あや
に接あひええよ。て是と重性うてなり。ろ
づくの宿遠やうといふも。いよくあつるをちて
描紙袋と紙ちよる。よふすあ合長あやのけむ
長者が臥人有といふものあや。さふこも出世れれ
名らうもたじ。なごいそのり。と古ひか異見志く
その症限は離縁てあま。い女師むあや。かりをりて
版となく。そんちう。うどうい。い。人彼是。りて。ゆも

せんゆが邪テになりて。身法があや。てい。は。す。い。れ。
あな。ア。よう。そん。な。病。情。か。と。う。今。文。を。い。れ。る。あ。
そふ。あ。今夜の且形。る。よ。そふ。えて。お。あ。の。町。は。家。
冥。て。も。い。ふ。て。常。住。お。ま。と。ひ。付。て。吐。く。こ。す。そ。と。伝。
い。実。は。拙。女。の。持。ま。根。性。が。べ。い。ち。氣。で。く。う。と。あ。臥。
夜。の。初。若。よ。あ。だ。廿。八。の。ま。で。脊。の。び。り。で。も。限。増。ふ。
年。限。の。延。び。は。後。ま。へ。并。枝。の。尚。齒。金。や。娼。婦。の。笑。
振。舞。入。齒。の。袂。附。く。こ。ん。の。袖。端。も。今。の。ま。る。

べし。板京へ托學にのちり。醫の書生。吉田に寄宿。
智積の寮侶とて帝昶の風を沐。清くふくま。花
洛の主人とす。足付不付にたぢ。魂消し。ぬむうに
て。幼年のあねうち。実祐まで。然る星といふ。たて溝
席へ出。あへ更。園を。と。机。う。く。王。且。善。の。自。炊。珍。しく
胃の備。疔。後。に。尿。瓶。す。で。帰。り。り。由。こ。國。元。より。は。送
金。と。延。し。と。帰。る。人。祖。父。の。伏。し。と。無。い。證。治。準。繩。や。昔。今
醫。統。も。お。て。る。は。り。り。際。を。日。々。ほ。く。が。酒。店。に。酔。を

よそ後寛が住まへ。今の北田院の邊。新南禪の
月。橋姫の宮。頂妙ちあ。檀王後の衣。風舟う。水梅花
の白へ。所家の相合場より。芳がく。小女良が垢付。布
子へ。代脉の病衣かど。ひさく。どろく。薪炊の芳も
ひひりく。常煮も十日。げり。洗。夜食。人
の麵。名。星舗で。買。石刻。元章と。ゆ。見。滄溟尺牘限の。才。怪文と。好。海。東
脩と。お。詩と。五七絶の。端。考。

よ。来。と。日。詩。選。性。氏。の。と。れ。る。め。と。愛。し。め。
り。芳。品。を。号。し。丹。波。屋。は。丹。丘。と。題。と。二。度。よ。び。
平。波。と。お。減。と。喝。掛。新。燈。は。董。主。昌。と。う。り。お。れ。
出来ぬ。新。秀。曲。と。休。日。偶。日。の。う。ち。な。く。新。道。
と。や。て。夕。は。あ。と。ま。の。悪。や。り。と。なり。生涯。傷。を。
編。の。未。書。と。著。述。せ。ん。と。石。川。氏。傳。と。識。て。名。教。
解。と。し。と。り。身。ん。か。る。見。識。は。り。く。な。ら。る。に。れ。
と。失。く。な。り。と。ふ。や。う。あ。ふ。や。う。醫。術。も。串。杵。の。や。う。

るなりよくまいすいはいはい人奥の首くびのいよよな
ふと身みとにいなりい夜よ松まつ口くちのい先生せんせい家けや世よ活かつないり
國くにのい同どう屋やへい時ときもいなりいふいぬいふいまいといれいるいのいよいふいけいと
とるいものいへい下しもまい河か町まちのい茶ち屋やのい姥おばがい錢せん利りはい書か出で帳ちやうをい
ふい所いむいりいなりい家いのい若わ衆しゆといもいいいふいがい史し教きやうはい委い
れいしいせいのい門もん人にんよいものいおいたいてい口くち儀ぎをいいいるいぞい似にどい
りいたい又また或ある茶ち人にんのい鷄けいとい闘たうしいたいらいるいぞい逸いつ氏しのい癖くせはいお
ふいろいろいりいをいとい一い路ろがいはいりいをいたいものいといれいなり

